



# 宗教学辞典

小口偉一・堀一郎 監修

東京大学出版会

宗教学辞典

---

1973年12月20日 初版第1刷発行  
1974年3月15日 初版第2刷発行

検印  
廃止

監修者 小 口 偉 一  
堀 一 郎  
発行者 福 武 直  
発行所 財団法人 東京大学出版会

東京都文京区本郷 東大構内 電話 811) 8814・振替東京 59964

---

落丁、乱丁本はお取り替えいたします  
© 1973 財団法人 東京大学出版会

3014-10277-5149

## 序

科学としての宗教学が成立して以来、すでに1世紀を経過した。もとよりこの科学は、ヨーロッパの学問として発足したのではあるが、日本でも19世紀末には、「比較宗教」あるいは「比較宗教学」の名称で諸宗教の比較研究が行なわれるようになり、その後、「宗教学」という学名が用いられるようになってからも、当然、比較研究を前提とするものとされた。つまり宗教学と比較宗教学とは別個の学問ではなく、比較宗教学は宗教学の中に包括されているわけである。

70年余の歴史をもつにもかかわらず、日本においては、宗教学に関する一般的理解は浅いといわねばならない。宗教学は神学から解放された学問であるといわれるように、神学との関係を無視することはできないが、神学(宗学・教学)と宗教学の相違については余り知られていない。宗教学と宗教哲学との関係と差異についても同様である。

宗教学の科学性は、民族学、心理学、社会学等、関連科学によって刺激され深められてきた。しかし、宗教現象の科学的研究とは何か、という疑問は未だに残されているようである。科学的研究とは、端的にいうならば、研究対象である宗教に対して価値判断を加えず、あくまでも客観的に研究することであり、これが、この学問の基本的性格である。したがって、宗教学の術語からは、価値判断をふくむ用語は排除されねばならない。これまでの宗教学の術語には、宗派・教派・教団などの用語をそのまま使用しているものもあれば、民族学や文化人類学との関係から、いわゆる土俗語を採用したものもある。そのほか、ギリシア語やラテン語、またそれらの合成語もある。19世紀末以来、先学たちは外国語の術語の翻訳に苦慮してきた。しかし、その訳語も不統一で、定着した術語は多くはない。また、学者の恣意的な造語が、宗教学の概念を混乱させていることもある。

用語上に混乱があっては、研究対象の解釈や理解を的確に表現することはできないであろう。このことは宗教史学についてもいえる。宗教学と宗教史学とは切り離しえない関係にある。それは、宗教学が宗教の歴史的研究の成果を資料とするからであるが、同時に、宗教史の叙述には宗教学の術語が用いられねばならないのである。

学術用語の統一をはかることは容易なことではない。ことに人間科学・社会科学としての宗教学のばあいには、関連科学が多いので、基準となる用語の選定も困難な作業である。この辞典においては、個別の宗教に関する記述は最少限にとどめ、諸宗教に共通にみられる事項を比較・検討するとともに、その共通点と差異点を理論的に明らかにするために、従来の学説史を詳しく辿ることにした。

宗教に関する辞典は、神道、仏教、キリスト教、イスラム教等、個別的には数多く刊行されているけれども、宗教学の辞典は少ない。私どもがいささか自負しうるのは、小辞典ではあるが、これが、日本における最初の『宗教学辞典』であることである。もとよりこの辞典がすべての用語を決定するというのではないが、現在においては、ひとつの基準となるものとおもう。

私どもは、監修者として、編集委員ならびに執筆者各位に心から深謝するものであるが、とくにこの辞典のために、文字通り盡瘁された柳川啓一氏に感謝しなければならない。また編集に着手以来、かなりの年月を費す結果となったにもかかわらず、好意的にこの刊行を推進された東京大学出版会の各位、とくに石井和夫、斎藤至弘両氏に対しても厚く謝意を表する次第である。

1973年10月

小 口 偉 一  
堀 一 郎

## 監修者

小口偉一 堀一郎

## 編集委員

赤司道雄	洗建	安齋伸	井門富二夫
後藤光一郎	鈴木範久	田丸徳善	戸田義雄
中村恭子	中村廣治郎	野田幸三郎	藤田富雄
松本滋	柳川啓一	脇本平也	

## 執筆者

青柳清孝	青柳真智子	赤池憲昭	赤司道雄
秋山達子	浅野満哉	安蘇谷正彦	阿部重夫
阿部正雄	阿部美良明	洗塚高志	荒井二夫
安斎伸	飯坂良昭	家田末利	井門富一郎
生野善応	池田幹治	池藤芳枝	石川順孝
石田慶和	伊藤啓司	上田賢治	井上閑照
岩田啓五郎	植野光雄	江嶋修	江原順
太田哲雄	大林太良	大峯田晋	大森元吉
岡田重博	小川英雄	小賀谷寛	小田島太郎
小野泰とこ	H.オームス	加藤武	景山春樹
川島通資	月光善弘	北原禎子	楠正弘
窪徳忠	久保田圭伍	熊沢義宣	久米博
小林正佳	古賀和則	児玉佳与子	後藤光一郎
小佐木宏幹	三枝充雄	坂井信生	桜井徳太郎
篠崎正美	々々木亨一	定形日佐	佐藤信行
杉森創吉	篠原木範久	島園八司	J.スイングド一敏
園田稔夫	高木きよ子	鈴木直道	関橋聰
田口貞信	高武内中正	高武田島	竹田照
竹中			

田	中	元	谷	口	茂	玉	城	康	四	郎	田	丸	德	善
田	村	朗	月	本	男	土	田	友	章	章	土	屋	光	道
土	屋	博	椿	倉	実	坪	井	洋	文	文	寺	川	俊	昭
戸	田	雄	富	野	雄	富	山	佳	夫	夫	中	谷	弘	光
中	根	枝	中	村	能	長	野	泰	彦	郎	中	原	真	澄
中	牧	允	中	部	子	中	村	治	郎	誠	中	村	暢	節
仁	科	典	沼	木	友	野	口	仲	誠	子	野	園	聰	清
野	村	子	波	居	一	長	川	房	子	房	華	井	正	膺
浜	井	修	原	野	実	平	井	哲	郎	哲	藤	美	佐	雄
藤	田	雄	星	田	紀	堀	田	郎	滋	郎	堀	田	達	子
堀	越	已	本	本	夫	前	本	登	也	郎	前	川	重	毅
松	濤	達	松	田	一	松	田	登	子	滋	皆	上	宗	夫
宮	家	準	宮	岡	元	宮	元	也	彦	登	村	柳	美	良
護	雅	夫	森	形	美	安	川	子	敦	也	柳	山	禎	玄
柳	啓	一	山	本	夫	山	田	彦	一	下	山	吉	平	惠
山	大	治	山	田	信	吉	田	邦			脇	本		也
吉	田	泰	吉	田	光	D.	リ							

# 凡 例

## I 項目について

- 1) 項目の排列は表音五十音順による。
- 2) 見出しは、本見出し・ひらがな読み・外国語の順とする。外国語は、必要と思われる場合にのみ付し、原則として英語をあげた。
- 3) 各項目には、読みやすいように適宜 [ ] で小見出しをつけた。とくに [定義] の欄は、用語の確立という観点から、例外を除き、全ての項目に設けるよう配慮した。さらに小さな区切りは 1), 2), 3)… で分けた。
- 4) 人名は、独立項目としてはとらず、索引にまわした。
- 5) 各項目とも図版・写真はいっさい入れなかった。
- 6) 関連・参照項目は、その項の末尾に → 印で示した。
- 7) 執筆者名は項目の末尾に ( ) で入れた。

## II 本文について

- 1) 現代仮名遣いとし、漢字は新字体を用いた。
- 2) 難解な漢字には ( ) でそのよみ方を付した。
- 3) 外国人名・地名・用語の仮名による表記は簡明な写音を用いるように心がけたが、多くは慣用にしたがった。外国人名には、同一項目中で初出のものに限り、ファースト・ネームの略号とともに原名を ( ) で入れた。
- 4) 本文中の用語で必要と思われるものには ( ) で原語を入れた。その場合、非ローマ字言語(アラビア語, ギリシア語, サンスクリット語, ヘブライ語など)は、ローマ字化して示した。
- 5) 年号は、原則として西暦を用い、必要に応じて日本・中国の年号を付記した。
- 6) 文中で敬称はいっさい省略した。また、聖——という用い方も原則としてしなかった。
- 7) 本文中に出てくる書名で、項目末の参考文献にあげてあるものは [ ] で出版年のみを記し、それ以外のものは ( ) で示した(文献の表記の仕方は、参考文献の場合と同様)。
- 8) 本文中の『 』は書名・雑誌名, 「 」は論文名・引用句・強調句などを示す。



凡 例

III 参考文献について

- 1) 単行本の表記の仕方は、著者名、書名、巻数、初版年(改訂版があればその年も)、出版社名、出版地名、の順であげた。  
外国書で邦訳のある場合は( )内に、訳者名、書名、出版年、出版社名を付してあげた。
- 2) 論文は、欧文は“ ”で、邦文は「 」でかこみ、その後に掲載誌名(または収録書名)、巻号、刊行年を付した(そのさい欧文の巻数はローマ数字、号数はアラビア数字で示した)。
- 3) 単行本・雑誌名は、欧文はイタリックで、邦文は『 』で示した。
- 4) 頻繁にでてくる欧文の辞典、雑誌名は略号を用いた。

[雑誌略号]

AAAM: *American Anthropological Association, Memoirs, Menasha.*

AA: *American Anthropologist, Menasha.*

AJS: *American Journal of Sociology, Chicago.*

AS: *Année sociologique, Paris.*

ASR: *American Sociological Review, New York.*

CSSH: *Comparative Studies in Society and History, Hague.*

HR: *History of Religions, Chicago.*

HTHR: *Harvard Theological Review, Cambridge, Mass.*

IF: *Indian Folklore, Calcutta.*

JAF: *Journal of American Folklore, Boston.*

JAOS: *Journal of the American Oriental Society, Baltimore.*

JRAI: *Journal of the Royal Anthropological Institute of Great Britain and Ireland, London.*

JSSR: *Journal for the Scientific Study of Religion, Philadelphia.*

RHPR: *Revue d'histoire et de philosophie religieuses, Strasbourg.*

RHR: *Revue de l'histoire des religions, Paris.*

SF: *Social Forces, Chapel Hill.*

SJA: *Southwestern Journal of Anthropology, Albuquerque.*

ZA: *Zeitschrift für Assyriologie, Berlin.*

ZAW: *Zeitschrift für die alttestamentliche Wissenschaft, Berlin.*

ZE: *Zeitschrift für Ethnologie, Berlin.*

[辞書略号]

B-HH: Reicke, B. u. Rost, L. (hrsg.), *Biblich-Historisches Handwörterbuch, 3. Bde.*

- 1962-66, Vandenhoeck & Ruprecht, Göttingen.
- DCR*: Brandon, S. G. F. (ed.), *A Dictionary of Comparative Religion*, 1970, Weidenfeld & Nicolson, London.
- DSS*: Gould, J. & Kolb, W. L. (eds.), *A Dictionary of the Social Sciences*, 1964, Free Press, Glencoe.
- EB*: *Encyclopaedia Britannica*, (1768) 1969, Encyclopaedia Britannica Inc., Chicago & London.
- EI*: Gibb, H. A. R. and others (eds.), *The Encyclopaedia of Islam*, new ed., 1960~, E. J. Brill, Leiden / Luzac & Co., London.
- ERE*: Hastings, J. (ed.), *Encyclopaedia of Religion and Ethics*, 13 vols., 1908-1926, T. & T. Clark, Edinburgh.
- ESS*: Seligman, E. R. A. (ed.), *Encyclopaedia of the Social Sciences*, 1930-35, 15 vols., Macmillan, New York.
- IESS*: Sills, D. L. (ed.), *International Encyclopedia of the Social Sciences*, 17 vols., 1968, Macmillan & Free Press, New York.
- RGG*: Galling, K. (hrsg.), *Die Religion in Geschichte und Gegenwart*, 3. Aufl., 1957-65, J. C. B. Mohr, Tübingen.
- SEI*: Gibb, H. A. R. & Kramers, J. H. (eds.), *Shorter Encyclopaedia of Islam*, 1953, E. J. Brill, Leiden.

# 分類目次

## I 宗教学と関連諸学

解釈学.....	(前田 毅)	80
機能主義.....	(柳川啓一)	117
構造主義.....	(D. リード)	193
護教論.....	(田島信之)	200
実存主義.....	(前田 毅)	238
宗教学.....	(脇本平也)	267
宗教現象学.....	(武内義範)	281
宗教史学.....	(後藤光一郎)	291
宗教思想.....	(田丸徳善)	297
宗教社会学.....	(柳川啓一)	300
宗教心理学.....	(野村暢清)	311
宗教調査.....	(冢塚高志)	319
宗教地理学.....	(片倉もとこ)	322
宗教哲学.....	(藤田富雄)	329
宗教民族学.....	(伊藤幹治)	348
神学.....	(田島信之)	397
進化論.....	(伊藤幹治)	403
信仰論.....	(館 照道)	420
神話学.....	(大林太良)	449
図像学.....	(柳 宗玄)	457
精神病理学.....	(小田 晋)	476
精神分析.....	(松本 滋)	479
世界観.....	(田丸徳善)	492
退化説.....	(山形孝夫)	519
伝道学.....	(熊沢義宣)	567
プラグマティズム.....	(高木きよ子)	651
文献学.....	(前田護郎)	665
文献学(インド).....	(原 実)	668
唯物史観.....	(村上重良)	720
理神論.....	(田丸徳善)	751

## II 一般宗教用語

愛.....	(三枝充恵)	1
異 端.....	(武田清子)	26
祈 り.....	(大峯 顕)	31
占 い(西洋・中国).....	(富倉光雄)	40
占 い(日本).....	(椿 実)	43
恩.....	(土田友章)	70
改 宗.....	(高木きよ子)	81
喜 捨.....	(中村廣治郎)	113
奇 跡.....	(安斎 伸)	114
救 済.....	(武内義範)	121
教 義.....	(田島信之)	131
教 典.....	(田島信之)	136
苦.....	(石田慶和)	162
啓 示.....	(土屋 博)	174
契 約.....	(土屋 博)	175
合 一.....		193
再 生.....	(中村燕子)	211
悟 り.....	(土屋光道)	217
懺 悔.....	(石田慶和)	222
宗 教.....	(脇本平也)	255
祝 福.....	(吉田禎吾)	366
呪 術.....	(吉田禎吾)	367
呪 文.....	(吉田禎吾)	381
試 練.....	(土屋 博)	395
シンクレティズム.....	(野口 誠)	407
信 仰.....	(館 照道)	409
神 託.....	(中野禎能)	424
信と行.....	(館 照道)	431
神 話.....	(大林太良)	444
崇 拝.....	(赤池憲昭)	453

スケープゴート.....	(小田島太郎)	456
正統と異端.....	(武田清子)	485
説話.....	(中村恭子)	498
善と悪.....	(上田賢治)	502
俗信.....	(太田哲雄)	510
たたり.....	(岡田重精)	522
タブー.....	(竹中信常)	526
知恵.....	(荒井 猷)	534
誓い.....	(大峯 顕)	536
つきもの.....	(岩田啓靖)	555
罪.....	(石田慶和)	556
伝説.....	(中村恭子)	565
伝道.....	(熊沢義宣)	566
瀆神.....	(定形日佐雄)	580
入信.....	(高木きよ子)	590
呪い.....	(吉田禎吾)	598
背教.....	(武田清子)	601
罰.....	(石田慶和)	610
復活.....	(中村恭子)	640
預言.....	(篠原亨一)	736
予兆.....	(坪井洋文)	739
靈感.....	(小野泰博)	756
靈験.....	(小野泰博)	756

### III 宗教思想

#### 1. 世界観

宇宙.....	(田丸徳善)	38
永遠.....	(武内義範)	45
永遠回帰.....	(堀越知己)	47
究極的関心.....	(田丸徳善)	120
空間.....	(阿部正雄)	164
現世.....	(池田 昭)	189
現世利益.....	(宮田 登)	190
暦.....	(吉田光邦)	207
時間.....	(阿部正雄)	223

地獄.....	(川又志朗)	228
自由意志論.....	(加藤 武)	253
宗教思想.....	(田丸徳善)	297
宗教哲学.....	(藤田富雄)	329
終末観.....	(宇野光雄)	356
昇天.....	(長野泰彦)	388
世界観.....	(田丸徳善)	492
他界.....	(島蘭 進)	520
天国.....	(川又志朗)	562
法.....	(玉城康四郎)	672
方位.....	(山崎美恵)	677
道.....	(松本 滋)	700
ミレニアム.....	(長谷川仲子)	705
無.....	(阿部正雄)	712
予定説.....	(加藤 武)	740
来世.....	(星野英紀)	747
輪廻.....	(玉城康四郎)	755

#### 2. 聖・神・靈魂

悪魔.....	(吉田禎吾)	3
アニマティズム.....	(竹中信常)	7
アニミズム.....	(竹中信常)	8
一神教.....	(石川耕一郎)	27
氏神.....	(伊藤幹治)	37
鬼.....	(小池長之)	63
神.....	(田丸徳善)	100
神の存在.....	(堀越知己)	107
カリスマ.....	(篠原亨一)	110
起因者.....	(大林太良)	113
機能神.....	(宮田 元)	119
偶像崇拜.....		166
化身.....	(土屋光道)	177
原始一神観.....	(大林太良)	181
交替神教.....	(石川耕一郎)	196
至上神.....	(宮田 元)	231
守護神.....	(宮田 元)	366

呪物崇拜.....	(藤井正雄)	377	雷.....	(竹中信常)	106
呪力.....	(竹中信常)	383	境.....	(桜井徳太郎)	214
神化.....	(宮田 登)	396	山岳信仰.....	(宮家 準)	219
人格神.....	(宮田 元)	402	自然崇拜.....	(藤井正雄)	234
神人同形観.....	(後藤光一郎)	422	樹木崇拜.....	(藤井正雄)	379
聖.....	(楠 正弘)	459	植物崇拜.....	(藤井正雄)	392
精 靈.....	(佐々木宏幹)	491	月.....	(吉田光邦)	555
創造神.....	(宮田 元)	509	天(中国思想).....	(吉田光邦)	561
多神教.....	(石川耕一郎)	521	天変地異.....	(金井新二)	569
単一神教.....	(石川耕一郎)	531	洞 窟.....	(川又志朗)	577
地母神.....	(小川英雄)	539	動物崇拜.....	(伊藤芳枝)	579
ディナミズム.....	(竹中信常)	560	土 地.....	(宮田 元)	583
天(天父神).....	(宮田 元)	560	トーテミズム.....	(江嶋修作)	585
天 使.....	(小田島太郎)	564	鳥.....	(赤池憲昭)	587
土地神.....	(宮田 元)	584	火.....	(椿 実)	617
◦ ヌミノノーゼ.....	(華園聰麿)	593	星.....	(吉田光邦)	680
拝一神教.....	(石川耕一郎)	600	水.....	(中野禰能)	698
汎神論.....	(田丸徳善)	615	夜.....	(藺田 稔)	742
◦ ヒエロファニー.....	(中村恭子)	618			
人 神.....	(宮田 登)	620	<b>4. 人 間</b>		
ブレアニミズム.....	(竹中信常)	653	遺 物.....	(藤井正雄)	33
魔 女.....	(吉田禎吾)	683	英雄崇拜.....	(江嶋修作)	48
マ ナ.....	(竹中信常)	689	王.....	(吉田敦彦)	56
無神論.....	(田丸徳善)	715	髪.....	(富倉光雄)	105
メシア.....	(宇野光雄)	716	狂 気.....	(長野泰彦)	128
有神論.....	(田丸徳善)	724	教 祖.....	(村上重良)	133
妖 怪.....	(小池長之)	734	巨 人.....	(中村 節)	139
妖 精.....	(田口貞夫)	735	近親相姦.....	(吉田禎吾)	159
理神論.....	(田丸徳善)	751	愚 者.....	(鈴木範久)	168
靈 魂.....	(上田賢治)	757	首.....	(佐々木宏幹)	169
靈 質.....	(上田賢治)	759	結 婚.....	(竹中正夫)	178
			皇帝崇拜.....	(後藤光一郎)	197
<b>3. 自 然</b>			子 供.....	(家塚高志)	204
雨.....	(竹中信常)	14	こびと.....	(中村 節)	205
石.....	(定形日佐雄)	18	死 者.....	(松本皓一)	229
風.....	(竹中信常)	93	呪術師.....	(吉田禎吾)	373

殉教者..... (田口貞夫) 384	
性器崇拜..... (中村 節) 463	
聖 者..... (高木きよ子) 469	
聖 娼..... (山形孝夫) 470	
生と死..... (谷口 茂) 486	
祖先崇拜(一般)..... (H. オームス) 511	
祖先崇拜(日本)..... (竹田聰洲) 514	
血..... (岡田重精) 533	
仲介者..... (堀美佐子) 545	
トリックスター..... (中牧弘允) 589	
妊 娠..... (柳川啓一) 592	
人 神..... (宮田 登) 620	
ヒューマニズム..... (久保田圭伍) 625	
病 気..... (川島通資) 627	
貧 乏..... (川島通資) 636	
不 具..... (長野泰彦) 638	
骨..... (藤井正雄) 681	
マニズム..... (伊藤芳枝) 695	
預言者..... (篠原亨一) 737	
○ 両性具有..... (植島啓司) 753	
靈 媒..... (小野泰博) 760	
老 人..... (家塚高志) 763	
5. 象 徴	
油..... (定形日佐雄) 70	
いれずみ..... (佐々木宏幹) 35	
色..... (柳川啓一) 35	
家 屋..... (定形日佐雄) 89	
金..... (川島通資) 98	
かまど..... (窪 徳忠) 99	
十 字..... (秋山達子) 353	
象 徴..... (柳川啓一・月本昭男) 386	
数..... (吉田光邦) 451	
旅..... (中原真澄) 525	
灰..... (原 実) 599	
橋..... (川又志朗) 605	

柱と棒..... (赤池憲昭) 606
旗..... (安藤谷正彦) 607
裸..... (柳川啓一) 609
光と闇..... (安元正也) 619
武 器..... (小林正佳) 637
右と左..... (安元正也) 696
門と戸..... (井上順孝) 719
錬金術..... (富山太佳夫) 761
輪..... (秋山達子) 767

#### IV 儀礼と修行

異人欲待..... (長野泰彦) 19
イニシエーション..... (佐藤信行) 28
オーギー(オルギー)..... (高橋 渉) 60
戒 律..... (生野善応) 85
鏡..... (北原禎子) 92
割 礼..... (吉田 泰) 96
仮 面..... (戸田義雄) 108
喫 煙..... (吉田禎吾) 116
饗 宴..... (園田 稔) 126
強化儀礼..... (本田英夫) 128
競 技..... (園田 稔) 129
行 者..... (宮家 準) 132
行 列..... (園田 稔) 138
浄 め..... (平井直房) 141
儀 礼..... (宮家 準) 153
禁 欲..... (赤池憲昭) 161
供 儀..... (篠崎正美) 166
供 物..... (古賀和則) 170
香..... (生野善応) 192
籠 り..... (園田 稔) 206
祭 具..... (戸田義雄) 209
祭 壇..... (戸田義雄) 213
酒..... (堀 哲) 215
修 行..... (宮家 準) 358

じゆず.....	(生野善応)	374
呪符.....	(吉田禎吾)	375
狩猟儀礼.....	(坪井洋文)	382
巡礼.....	(小池長之)	384
称名.....	(土屋光道)	389
食物.....	(篠崎正美)	393
神婚.....	(蘆田稔)	421
神殿.....	(戸田義雄)	425
聖地.....	(戸田義雄)	483
説教.....	(熊沢義直)	497
葬送儀礼.....	(松本皓一)	506
断食.....	(中村廣治郎)	532
治病儀礼.....	(小野泰博)	537
通過儀礼.....	(桜井徳太郎)	552
定礎儀礼.....	(本田英夫)	559
塔.....	(戸田義雄)	570
年中行事.....	(坪井洋文)	595
農耕儀礼.....	(坪井洋文)	596
墓.....	(戸田義雄)	602
初物.....	(沼部春友)	611
祓い.....	(平井直房)	614
廟.....	(戸田義雄)	626
祭.....	(蘆田稔)	684
密儀.....	(前田護郎)	702

## V 宗教と心理

回心.....	(高木きよ子)	82
カウンセリング.....	(浅野満)	88
幻覚.....	(佐々木雄司)	180
原始心性.....	(安元正也)	188
宗教意識.....	(洗建)	263
宗教経験.....	(洗建)	278
宗教行動.....	(洗建)	286
宗教情操.....	(洗建)	310
宗教心理学.....	(野村暢清)	311

宗教的人格.....	(松本皓一)	325
宗教の態度.....	(松本皓一)	328
信仰治療.....	(小野泰博)	417
精神病理学.....	(小田晋)	476
精神分析.....	(松本滋)	479
夢.....	(洗建)	733

## VI 宗教と社会

家族・親族.....	(中根千枝)	94
寛容.....	(田中元)	111
教団組織者.....	(池田昭)	134
教団分裂.....	(森岡清美)	135
経済と宗教.....	(浜井修)	172
合理化.....	(仁科義典)	198
国家と宗教.....	(阿部美哉)	201
国教.....	(阿部美哉)	202
社会階層.....	(中根千枝)	242
社会変動と宗教.....	(森岡清美)	244
宗教行政.....	(阿部美哉)	274
宗教共同体.....	(寺川俊昭)	277
宗教裁判.....	(児玉佳与子)	287
宗教社会学.....	(柳川啓一)	300
宗教集団.....	(森岡清美)	305
宗教政党.....	(飯坂良明)	318
宗教と教育.....	(安斎伸)	335
宗教変容.....	(江嶋修作)	344
宗教法.....	(飯坂良明)	345
職業観.....	(竹中正夫)	390
信教の自由.....	(飯坂良明)	404
神権政治.....	(阿部美哉)	408
信徒集会.....	(井門富二夫)	432
信徒集団.....	(赤池憲昭)	434
信念体系.....	(池田昭)	435
税.....	(山川令子)	462
政教分離.....	(阿部美哉)	464

政治と宗教.....	(阿部美哉)	466
聖職者.....	(山ノ井大治)	473
世俗化.....	(J. スインゲドー)	495
戦争.....	(坂井信生)	500
僧院.....	(赤池憲昭)	504
チャーチ・セクト・デノミネーション .....	(井門富二夫)	540
伝道.....	(熊沢義宣)	566
独身制.....	(赤池憲昭)	581
迫害.....	(田中 元)	604
非暴力主義.....	(坂井信生)	622
秘密結社.....	(青柳清孝)	623
平和主義.....	(坂井信生)	671
奉仕.....	(杉森創吉)	679
利子.....	(高橋 渉)	749
リバイバル.....	(野村文子)	752

## VII 宗教と文化

演劇.....	(中谷弘光)	53
音楽.....	(皆川達夫)	72
絵画.....	(柳 宗玄)	77
科学と宗教.....	(山本 信)	90
讃歌.....	(浅野 満)	218
彫刻(東洋).....	(景山春樹)	546
彫刻(西洋).....	(江原 順)	549
道徳と宗教.....	(館 照道)	578
舞踊.....	(白田甚五郎)	649
文学.....	(久米 博)	655
文化と宗教.....	(松本 滋)	660
遊戯.....	(関 一敏)	723

## VIII 宗教の類型と諸宗教

アジアの宗教.....	(佐々木宏幹)	4
-------------	---------	---

アフリカの宗教.....	(大森元吉)	11
アメリカの宗教.....	(佐藤信行)	15
イスラム教.....	(中村廣治郎)	27
エジプトの宗教.....	(鈴木八司)	57
オセアニアの宗教.....	(青柳真智子)	67
オリエントの宗教.....	(後藤光一郎)	65
陰陽道.....	(窪 徳忠)	75
ギリシアの宗教.....	(前田護郎)	143
キリスト教.....	(赤司道雄)	146
原始宗教.....	(阿部重夫)	183
自然宗教.....	(月光善弘)	233
自然的宗教.....	(楠 正弘)	237
ジャイナ教.....	(松濤誠達)	240
シャマニズム.....	(佐々木宏幹)	249
宗教改革.....	(波木居純一)	264
宗教の類型.....	(鈴木範久)	347
儒教.....	(池田未利)	367
新興宗教(新宗教運動)(井門富二夫)		411
神道.....	(平井直房)	426
神秘主義.....	(上田閑照)	436
世界宗教.....	(鈴木範久)	494
創唱宗教.....	(鈴木範久)	506
ゾロアスター教.....	(護 雅夫)	516
道教.....	(窪 徳忠)	572
バハイイ教.....	(加賀谷寛)	612
ヒンドゥ教.....	(高崎直道)	629
仏教.....	(田村芳朗)	647
マニ教.....	(加藤 武)	692
ミトラス教.....	(小川英雄)	703
民間信仰.....	(桜井徳太郎)	707
民族宗教.....	(鈴木範久)	717
ユダヤ教.....	(吉田 泰)	726
ヨーロッパ古代の宗教... (田口貞夫)		744
ローマの宗教.....	(前田護郎)	764



## ア

愛 あい 愛についての定義はむずかしい。定義をしようとすればするほど、洩れるものが生じて、結局、われわれが日常使いなれている愛の全部を尽くすことができないからである。人間のみならず、生あるものすべてが、その生の所以をたどってゆくと、その根源には愛がひそんでいることが知られる。ここでの愛は、ある意味で本能的なものを指している。異性間の愛、親と子との間の愛なども、それに属するといえよう。この場合には、愛はその生の本能に根ざしているがゆえに、それをしいて愛といわなくとも、そしてその尊さその他を主張しなくとも、おのずから愛はその他者に及ぶ。その他者を生み、その生を育て、そしてそのなかに自己は没入している。いいかえれば、愛さずにはいられないのである。これは生あるものとの関係の最も根源的なもの(のひとつ)ということができよう。しかしこのような愛は、それが本能的、すなわち自然発生的であるところから、なかなか制御がきかないし、また往々にして他者の反逆や裏切りによって憎しみにも転じやすい。ここでは愛と憎とはうらはらであって、もともと愛がなければ憎はなく、ただ無関心にすぎたであろう。

愛については、どの時代にもつねに考察され、語られてきており、その全部を尽くすことは不可能といえよう。人間そのものの本質を問う哲学が、たとえばギリシアで誕生したとき、それはフィロソフィアと呼ばれた。すなわち philo(愛)と sophia(知)とを一つにした術語であり、哲学そのものがすなわち知への愛なのである。人間の愛の古典的な解釈は、プラトンの『饗宴』に出てくるエロース(érōs)論である。このエロース(愛)は、もともと自己に欠けているものを得ようとするはたらきであり、より美しく、より高く、より完全で、より価値あるものに向かってゆく。その根柢にプラトンのイデア説が

あることはいうまでもなからう。

【宗教の説く愛】人間がその徳や能力はもとより、存在そのものが有限であることを自覚したとき、その有限性を超えて無限なるものに向かおうとする宗教の場において、愛はきわめて重要な項目である。愛はどの宗教においても、その本質(のひとつ)をなし、とくにキリスト教は一般に愛の宗教と説かれる。仏教では、愛という言葉を避けて、慈悲の語を用いる。宗教的色彩の薄い儒教にあっても、仁がとりあげられ、それには人間愛ともいうべきものがこめられている。そのほかヒンドゥ教には信愛(bhakti)を説くなど、一言でいえば、宗教は愛を高め、愛は宗教を深める。

1) 『旧約聖書』の説く愛 無限者・絶対者は旧約においても新約においても神である。そしてその神は愛を本質とする。神は愛によって人間を創造した。それは神の人間への一方的な愛であった。それに対して、人間に墮罪があり、神の愛にそむいた。神は怒り、神は耐えた。出エジプト記20や申命記6:5では、人間が神の愛にこたえるべきことを、律法として、イスラエルの民に課し、またレビ記19:18には、「おのれのごとく汝の隣人を愛すべし」と課せられた。しかし神の愛への人びとの疑問、愛そのものについて自己と他者ないし神との関係への絶望などが、なお『旧約聖書』においては残っている。

2) 『新約聖書』の説く愛 イエス・キリストの出現によって、愛はきわめて力強くその本質をあらわした。当時のユダヤ教が律法をせまり義を追究したのに対して、イエスはもっぱら愛を掲げた。ここでは愛はエロースを廃して、アガペー(agápē)の語で呼ばれる。エロースが自己中心的であるのに対して、アガペーはひたすら他者を中心とする純粋さをもっている。イエス・キリストの出現、その教え、そして十字架